

未来


人権教育啓発シリーズ NO.6



人は誰もが人間らしく幸せに生きる権利をもっています。しかし、世の中には「性」について正しい知識がないために、気付かないうちに差別的な言葉を使っている人がいます。決め付けた考え方や発言によって、自分を好きになれなかったり、ありのままの自分を表現できなかったりして生きづらさを感じている人もいます。今月はこの問題について考えてみましょう。

「性」について、いくつ分かりますか？

第1問
カナダから世界中に広まった「**ピンクシャツデー**」という、いじめ撲滅を訴える日がある。○か×か？



→ 「○」… **今年は、2020年2月26日**

毎年2月の最終水曜日。

この始まりは2007年。
ピンク色のポロシャツを着ていた男子学生が、上級生から「**ホモ※**」とからかわれ暴行を受けました。それを知った彼の上級生二人は、放課後、ディスカウントショップに行き、ピンク色のシャツやタンクトップを50着ほど買い込むと、クラスメイトにそれを着るように連絡します。
次の日、連絡を受けたクラスメイトはもちろんのこと、それ以外の生徒も、ピンク色の服を着たり小物をつけたりして登校したため、学校中がピンク色に染まりました。言葉や暴力ではなく、自分たちの行動でいじめに「**NO**」を突きつけた彼らの行動は、メディアに取り上げられ、瞬く間に世界中に広がったのでした。

※ 「ホモ」とは「ホモセクシュアル」の略した言葉で、差別用語として放送などで規制されています。

第2問
辞書で『**恋愛**』とひくと、

男女がたがいに、または一方が、相手を好きになり、いつもいっしょにいたいと思うような気持ちになること

と説明されている。○か×か？

→ 「×」… **異性愛とは限りません。**

『**恋愛**』は
【二人が恋したり、愛し合ったりすること】
〔三省堂 現代新国語辞典 第六版〕

と、2018年10月に発売された最新の辞書には説明されています。問題文の表記は、辞書の改訂前(第五版)のものです。
つまり、「**異性愛前提**」だった考えが**正され**、性別にかかわらず、恋をしたり、愛し合ったりすることを「**恋愛**」ということが辞書にはもっともふさわしいと判断されたのです。
このほかに、『**カップル**』は「1組の恋人どうしや夫婦」と、『**恋心**』は「恋しいと思う気持ち」と表記されるなど、今まで【**男女間で…**】と記載されていた部分はすべて見直されています。

※ 「好きになる」気持ち(恋愛感情)を誰でも持っているわけではありません。『人を「好き」になるって、どんな気持ちなんだろう?』と悩む人は世界中にたくさんいます。

第3問
「**LGBT**」とは「**多数者とは異なる性的指向をもつ人々**」のことである。という説明は正しい。○か×か？

→ 「×」… **「LGB」と「T」は別ものです。正しく理解しましょう。**

「**LGBT**」とは、女性の同性愛者を指す「**レズビアン**」の「**L**」、男性の同性愛者を指す「**ゲイ**」の「**G**」、両性愛者を指す「**バイセクシュアル**」の「**B**」、身体の性と自己認識としての性が一致しないことやその人を指す「**トランスジェンダー**」の「**T**」の頭文字を併せた言葉です。セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)の総称として理解されることもあります。
つまり、「**LGB**」は「**性的指向**」を、「**T**」は「**性自認**」を表しています。全く関係がない「**トランスジェンダー**」と「**性的指向**」を混同して使用するのは間違っています。2018年1月に発売された「**広辞苑 第7版**」でも上記の問題文のような意味で掲載されているため、謝罪・修正されました。